

# 仙台大学同窓会福島県支部再開への道

## 発会趣旨

今、我々の母校仙台大学は、五十年の歴史を重ねてきた。その中で、かつて船岡の地で学んだ同窓生は、教育界はもとより、各方面においてその力量を発揮してきた。何も無い厳しい環境で育った開学初期の学生が、学生生活や部活動で培った負けじ魂を活力に、様々な課題や困難を乗り越え、力をつけてきたといえる。仙台大学の近年の学習環境の充実、後輩諸君の多方面にわたる活躍を目にするにつけ、改めて母校愛を呼び覚まさせてくれているといえる。特に、同窓会事務局の企画で開催された還暦同期会においては、卒業以来、三十八年ぶりに大学に足を踏み入れた卒業生が数多くおり、校舎施設の一部にかつての面影を追いながらも、現在の大学施設の充実した様子に、改めて同窓生としての喜びと感激を味わうことができた時間であった。

振り返って、近年、仙台大学で学ぶ学生たちを取り巻く環境は多様化・複雑化し、選択すべき進路に於いても、児童生徒数の減少に伴う教員定数の見直し、教員の働き方改革に伴う志願者数の問題、選考学科での専門的知識や技能を生かした職業の選択等、多くの課題や問題が山積している。このような環境の中で、今こそ私たち同窓生の果たすべき役割と期待は益々高まっているものといえる。

そのような中、現在は休止中という「仙台大学福島県支部」の現状に課題意識を強く持つ10期生有志が立ち上がり、同窓会活動の充実による世代を超えたネットワーク構築の必要性を認識し、福島から新しい仙台大学同窓会支部のあり方を求めていこうとする機運が高まった。ついでには、仙台大学同窓会本部事務局のご理解のもと、ここに「仙台大学同窓会福島県支部」の再生、復活を宣言し、同窓生の誇りある力強い先輩の背中をもって、夢と希望をもって仙台大学で学ぶ後輩諸君の明るく輝かしい未来の創造にできうる限りの支援を行うことを宣言したい。

仙台大学同窓会福島県支部役員

○ 顧問 遠藤 活美 (9) 江尻 雅彦 (10)

○ 参与 渡部 則一 (6) 丹野光太郎 (8)

○ 支部長 丹 孝平 (10)

○ 副支部長 安田 克行 (10)

○ 事務局長 靄田 雅之 (10)

○ 事務局次長 鈴木 透 (16)

・理事 県北 斎藤智也 (17)、尾形栄一 (21)

県中 鈴木拓也 (25)

県南 小出義則 (20)、矢島 淳 (34)

会津 猪俣俊伸 (30)

いわき 鯨岡佳弘 (36)

相 双 齊藤清人 (16)

・幹事 尾形栄一 (21)

鈴木拓也 (25)

